

10月は男女共同参画推進月間



エスディー・ジーズ SDGs ×

ジェンダー平等の社会へ

☎ 市民活動推進課市民相談班 ☎23-1299



男女共同参画とSDGs

SDGsとは、人類がこの地球で暮らし続けていくために、2030年までに達成すべき17のゴール(目標)です。その中のひとつに『ジェンダー平等を実現しよう』が掲げられています。

今の社会では、「女性・女の子だから」と、個人の希望や能力ではなく「性別」によって生き方や働き方の選択肢や機会が決められてしまうことがあります。ジェンダーとは、このように社会的・文化的に作られた性別・性差のことです。

「ジェンダーの平等」とは、一人ひとりの人間が性別にかかわらず平等に責任や権利、機会を分かち合い、あらゆる物ごとを一緒に決めることができることを意味しており、日本では「男女共同参画社会基本法」で重要課題として位置づけられています。

男女格差を「示す」ジェンダー・ギャップ指数
世界経済フォーラムが今年3月に各国における男女格差を測るジェンダー・ギャップ指数を発表しました。この指数を100点

満点に換算すると、日本は66点。世界156カ国中、120位となっています。特に、日本は「経済」と「政治」において指数が低くなっています。

長門市民の意識は？

令和2年度の市民意識調査では、社会全体の男女の地位について「平等」と答えた人はわずか13・2%でした。

また、家庭生活における「日常の家事」の役割分担について、理想は「父または夫婦が協力して」しかし、現実には「主に母または妻」の割合が高い結果でした。

長門市でも、ジェンダーの平等を感じていない市民が多いことや、理想と現実にギャップがあることが分かりました。

まずは知る「ことから」

令和3年度から、市では若年層を対象に新たな啓発事業をスタート。7月19日(月)に菱海中学校に出向き、3年生を対象に「男女共同参画社会について」と題して授業を行いました。生徒たちは男女共同参画の歴史や雇用機会均等法などについて理解を深めました。



▲「男女共同参画ってこういうことなんだ」と納得する生徒も

一人ひとりが輝ける社会へ

SDGsの中では、ジェンダーの平等を実現するには、女性に対するあらゆる差別や暴力をなくすこと、家事や子育て・介護など家庭内の役割分担を「仕事」として見直すこと、政策・方針を決定する過程への女性の参画拡大などの取組が必要とされています。

市ではジェンダー平等・男女共同参画社会の実現に向け、啓発事業や相談窓口での支援などの取組を推進していますが、市民の皆さん一人ひとりの意識改革も重要です。

長年に渡り人々の中に形成された「女性だから」「男性だから」という固定観念にとらわれず、一人ひとりの希望や考え方が受け入れられる柔軟な社会を実現していきましょう。

パネル・図書展示を実施します

男女共同参画について理解を深めていただくため、パネル及び関連図書の展示を行います。この機会に、男女共同参画社会について考えてみませんか。

■場所

パネル…長門市中央公民館ロビー
ラポールゆやロビー
図書…長門市立図書館
(本館・ゆや分館)

■期間

10/1(金)～10/31(金)

男女共同参画審議会 委員募集

男女共同参画社会の形成推進に必要な事項を調査、審議する審議会の委員を募集します。

■募集人数 2人程度

■任期 12/17(金)～2年間

■資格

市内在住で満20歳以上の人

■申込期限 10/22(金)

■申込方法 市民活動推進課および各支所出張所に備え付けの応募用紙に必要事項を記入の上、左記宛先まで提出(FAX・メール可)

■申込・問い合わせ

〒759-4192
長門市東深川1339番地2
市民活動推進課市民相談班
☎23-1299
☎23-1297
FAX 22-9077
Mail soudan@city.nagato.lg.jp

やまぐち男女共同参画推進事業者募集

山口県では、社会全体で男女共同参画を推進する気運の醸成を図るため、ワークライフバランス実現に向けた自主的な活動に取り組んでいる事業者を「やまぐち男女共同参画推進事業者」として認証し、その活動を支援しています。現在市内にも認証されている事業者がいまます。また、女性労働者の活躍に向け、積極的に取り組むことを宣言する事業所を「やまぐち女性の活躍推進事業者宣言制度」により応援します。

詳しくは山口県ホームページをご覧ください。

http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a12800/support/top.html

山口県男女共同参画課

☎083-9333-2630

interview

起業にチャレンジした女性にインタビュー

訪問美容&美容室

てとてん hand and dot

こばやしともえ
小林 知恵 さん

今年7月に、古民家をリノベーションして美容室を開業した小林知恵さん。

市内では珍しく、自宅や施設に出向いてヘアカットを行う「訪問美容」をメインに事業を行っています。外出が困難な高齢者や障害者の自宅や施設を訪問してヘアカットを行うことも。

小林さんは、性別や見た目、障害の有無、年齢などで人を区別せず、対等なひとりの人間として誰とも接することを心がけています。

私生活では4人の男の子を育てている母親でもある小林さん。そんな小林さんにお話を伺いました。

起業を考えている女性へ

今の生活を変えるということはとても勇気が必要です。

これまでは、すべてを自分で解決しなきゃと思っていたけれど、勇気を出して人に相談したことによって、人の繋がりも増え、周囲の人達が支えてくれました。甘えることも大切だと感じています。

「失敗を恐れてはいけない。恐れなくてはいけないのは、失敗を恐れて何もしなくなることだ。」という言葉聞いてハッとしました。実際、やってみると、何倍も得るものの方が多かったです。

笑顔のつながり、広がる

大切な人たちから繋がった輪が、もっと広がり、笑顔がふえればいいなと思っています。

起業した「きっかけ」

これまで、市内のヘアサロンで働いていましたが、高齢のお客さまに「免許証を返すことになったんだよ。そしたら、もう来られなくなるな」と言われた一言がきっかけとなり、出張型美容サービスを提供できないかと起業を決意しました。

また、地元にも恩返しができたらという思いから、地元にお店を開業することにしました。店名の「てとてん」は、「手と点」や「手と天」から名付け、色々な場所に出向いて、自分の手でお客さまのお手伝いをしたいという想いを込めています。

子育てを「楽しむ」、自分の時間も大切に

できないことや無理はしない、自分の身の丈に合った子育てをす

るようにしています。子どもたちが笑顔でいるために、まずは自分が笑顔で過ごせるよう、自分の時間も大切にするようにしています。

老若男女問わず居心地の良い美容室に

お客さまのクロスは、男性だから青、女性だから赤というような区別はしないように心掛けています。また、美容室を可愛らしい造りにしてしまうと、男性客が入りづらくなるため、誰でも気軽に来店できるよう昔ながらの温かい雰囲気大切に店づくりをしました。

家の中でも、「お兄ちゃんなんだから」という言葉を使わないようにしています。先に産まれたからという考えをせず、子どもたちには、一人の人として尊重し言葉をかけています。